



国民の森林・国有林

平成23年12月10日

(2011年)

No 1679

九州森林管理局

〒860-0081

熊本市京町本丁2-7

IP電話 050-3160-6600(代表)

http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/



森林の流域管理システム推進発表大会

研究成果を公表

九州・沖縄各県から400人が参加

11月9・10日の両日、くまもと県民交流会館パレオにおいて「平成23年度森林の流域管理システム推進発表大会」を開催。当局・署の職員と九州各県の森林・林業関係者や九州・沖縄の各県で森林・林業を学ぶ高校生、さらに今年は、森林環境教育に取り組んでいる小学生も発表。両日で延べ約400人が参加しました。

発表は、それぞれの地域や職場、学校などで取り組んでいる、林業技術や保護活動、業務改善など多岐にわたり、今回は昨年を上回る30課題（一般の部22課題、高校の部8課題）の発表となり、審査委員会にて特に高い評価のあった一般の部7課題と高校生の部2課題が表彰されました。（2面に関連記事）

一般の部22課題・高校生の部8課題を発表＝県民交流会館パレオ

この発表大会は、九州林政連絡協議会が主催し「九州森林（もり）の日」の関連行事として、森林・林業関係者や高校生などが、日ごろ取り組んでいる活動の成果を発表し、技術の交流や情報交換を行い、流域の森林・林業の活性化を図る目的で開催しているもので、今回で17回目を迎えました。

はじめに、同協議会会長の平之山俊作九州森林管理局局長が「今年は、農林水産省で策定しました「森林・林業再生プラン」の取り組みを実質的に開始する意義深い年となっています。また、発表内容につきましては、シカ被害対策、低コスト林業化、森林保全活動など、各般にわたる課題が用意されており、研究成果に大いに期待しています」とあいさつ。

その後、高校生8課題の発表を行い、発表終了後に優秀な成績であった2校に九州森林管理局長賞を授与しました。一般の部は国有林9課題、民有林7課題、民・国共同5課題、小学校1課題の発表が2日間にわたり



特別講演を行う鹿児島大の寺岡行雄准教授

2日目は、課題発表終了後に、鹿児島大学農学部寺岡行雄准教授が「九州における木質バイオマス燃料の利活用」と題して特別講演を行いました。

最後に、副審査委員長宮城勇朗計画部長が講評を行った後、九州林政連絡協議会会長賞（最優秀賞1課題、優秀賞4

課題、特別賞1課題）および日本森林技術協会理事長賞1課題が表彰され、2日間にわたる発表大会を終了しました。

（担当＝指導普及課）



最優秀賞受賞の大分西部森林管理署のみなさん

7 課題と 校の部 2 課題を表章 森林の流域管理システム推進発表大会

平成23年度森林の流域管理システム推進発表大会の各賞の入賞課題と発表者は次のとおりです。

九州林政連絡協議会会長賞

最優秀賞
◇国有林におけるシカ被害対策の取組みについて
大分西部森林管理署
迫畑啓逸
高倉義彦
田邊重徳
木村圭文

九州林政連絡協議会会長賞

◇地域材を活かすための屋久島の取り組み
屋久島町役場、屋久島大屋根の会、屋久島森林管理署
川崎勝也
浦田 功
山部国広

優秀賞

◇種子島における利用間伐への移行に向けた取組
鹿児島県熊毛支庁農林水産部 林務水産課
長濱孝行

廣田光春

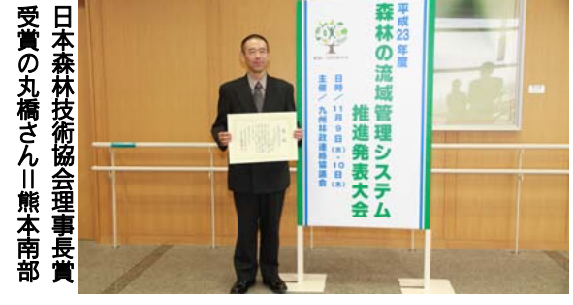
九州林政連絡協議会会長賞・優秀賞の皆さん



(山部国広さん＝屋久島署) (長濱孝行さん＝熊毛支庁)



(宮崎署の皆さん) (佐賀署の皆さん)



日本森林技術協会理事長賞
受賞の丸橋さん＝熊本南部長

民・官の協働による虹ノ松原

◇再生・保全活動について
特定非営利活動法人唐津環境防災推進機構 K A N N E
佐賀森林管理署
藤田和歌子
下村康広
小中原真



特別賞受賞の山都町立清和小のみなさん

特別賞

◇森は川と海の源々下流の人のことを考える
山都町立清和小学校
荒木夏稀
荒牧 忍
亀谷幸祐
古閑晴香

日本森林技術協会理事長賞

◇モバイルGISの活用について
熊本南部森林管理署
丸橋勝寿
田代祐子

- 中村光祐
- 奈須雅俊
- 藤河 暉
- 藤嶋晴花
- 藤永 凌
- 藤原未来
- 渡邊愛斗

九州森林管理局長賞

◇天然資源の有効活用 PartⅡ 「里山再生プロジェクト」～夕



九州森林管理局長賞＝大分県立日田林工高等学校

九州森林管理局長賞

◇森の恵みに感謝！活かせ八重農演習林～文化の継承・地域交流・生物の活用をとおして～
沖縄県立八重山農林高等学校
仲宗根てつ平
池間沙織
浦崎 悠
黒島高祐

ケの有効利用をめざして・タケを原料として新木質材料（PB B・PSBL）の開発～東日本大震災における「がれき」の処理に朗報
大分県立日田林工高等学校
鞭馬祐也
渡邊孝紀
藤井逸斗
渡辺翔馬



九州森林管理局長賞＝沖縄県立八重山農林高等学校

労働基準監督署と安パトロール

【大分西部森林管理署】請負事業者の労働安全の確保と強化を図るため、当署管内で作業道



パトロールへ参加された皆さん＝大分西部

新設や保育間伐活用型などの事業を行っている請負事業者と日田労働基準監督署との合同で安全パトロールを行いました。各作業地で、当日の作業内容や安全対策などを説明。監督署から最近の災害事例を伝え、重機のパトロールを終了しました。

「九州森林の日」植樹祭開催

（6月22日）の山頂からの夜景は、日本新三大夜景としても有名。

森林の恩恵は未来永劫に

皿倉山一体の国有林は、昭和45年に「北九州自然休養林」に指定。以来、利便性の良さや、360度の眺望などの好条件は、「観光・自然散策・体験学習・ドライブ」などの人気スポットとして、年間約60万人の来訪者で賑わっています。

また、皿倉山



自然休養林には、ほかに権現山（618m）、帆住山（488m）、花尾山（551m）と四山とも城

帆柱自然公園愛護会

理事
田代 誠一さん

「都市近郊林」で。今年「国際森林年」であり、昨年「国際生物多様性年」と両輪になって地球の保全や森林の機能を広める絶好の機会ですが、今一つ社会的に認識されていないのが残念



植樹を終え桜島をバックに記念撮影＝鹿児島

【鹿児島森林管理署】11月13日桜島地区民有林直轄治山事業施工地において鹿児島県や鹿児島みどりの基金および当署主催

による「九州森林の日」植樹祭を行いました。当日は県森林整備公社、富士通鹿児島インフォネットの協賛を得て、500人が参加。抵抗性マツのスーパードリントつきやシャリンバイなど1000本を植樹しました。式典では県環境林務部長が主催者を代表しあいさつ。続いて、当署署長が国有林の取り組みや桜島地区治山事業の経緯・概況を説明。参加者から「こんな間近で桜島を見たのは初めて、雄大さを感じています。今後このような催しがあれば是非参加したい！」など喜びの声がかつた。九州森林の日」にふさわし

址があり、鎌倉時代前後の史跡を含み、100年生の照葉樹林での森林浴、野生鳥獣の保護区などの森林機能は多岐に亘り、公益的機能の利活用が十分に発揮されている



丁寧に植樹する参加者＝宮崎北部

植樹・自然観察会に70人参加

い植樹祭となりました。

【宮崎北部森林管理署】11月20日、日向市ふるさとの自然を守る会と共催で「お倉ヶ浜ふれあいの森」において、植樹および自然観察会を開催。行事には子供会や家族など、約70人が参加しました。はじめに、抵抗性クロマツ350本を植栽。参加者は、1本1本に想いを込めて丁寧に植え付けを行いました。その後、守る会の大野裕森林インストラクターが海岸林内の植物について「自然観察会」を実施。参加者らはインスタラクターの説明に耳を傾けていました。最後に、ノウサギの食害から苗木を守る幼齢樹保護力バーの設置を終了しました。

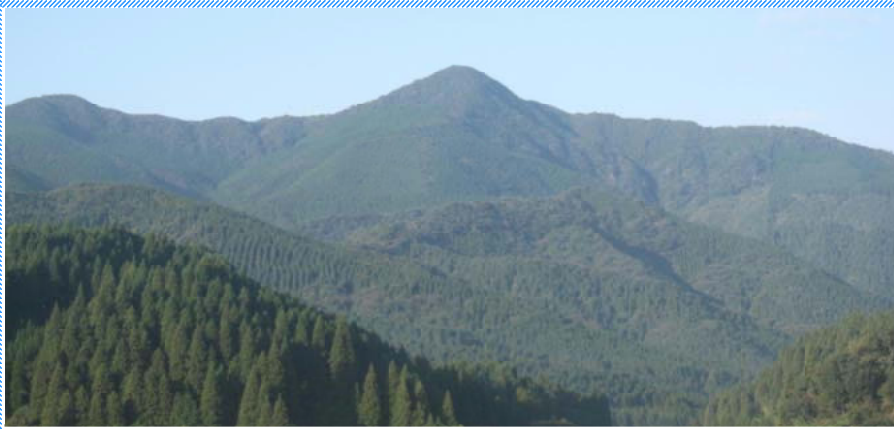


宮崎南部森林管理署

大東森林事務所

森林官 川野 等

大東森林事務所管内にある男
鈴山（おすずやま）は標高78
3・4段で、日南市と串間市の



(上) 中央が男鈴山で左が女鈴山

(下) 夏場には涼を求めて賑わう赤池溪谷

登山コースは
双方の山の稜線
を縦走して回れ
るようになって
おり、往復で違
う景色を楽しむ
ことができます。
また、日南市
側からも酒谷の
西之園林道から
入るルートがあ
り、こちらも所

見られます。
男鈴山の隣に
は女鈴山が連立
し、女鈴山の山
頂近くには鈴獄
神社が祀られて
おり、登山の無
事を願う参拝し
て行く方も多く
見られます。

境に位置し、東南に延びる稜線
が両市の分水嶺となっています。
「おすずやま」と言えば宮崎
県の中央部にある同名の尾鈴山
が有名ですが、当署管内の男鈴

山も宮崎日日新聞社発行（20
00年）の「みやざき百山」に
選ばれており、登山に要する時
間も往復で約60分と手軽に登山
を楽しめることから熟年層を中
心に年間を通して
て多くの人が訪
れています。

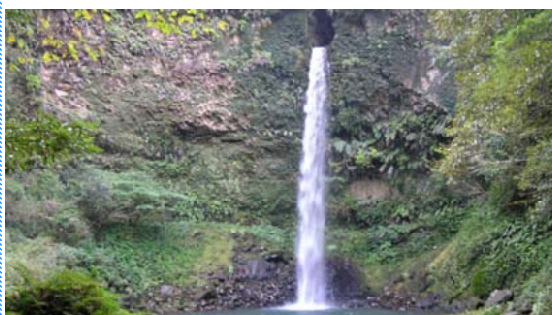
「みやざき百山」に選定
『男鈴山』標高783・4段

要時間はほぼ同じで往復約60分
となっています。

山を下ると近くには夏場に涼
を求めて賑わう赤池溪谷や日南
市側には小布瀬の滝などもあり、
観光と併せて訪れる登山者も多
いようです。

登山道周辺にはオオムラサキ
シキブ、コフジウツギの木本類
やホトトギス、オオナンバンギ
セルなどの草本類が点在し、季
節により綺麗な花をみかれます。
凶鑑を手に散策しながら登山す
るのも一考かと思われれます。

日ごろ忙しく時間に余裕が持
てない方でも、日帰りで楽しめ
る手軽で身近な男鈴山に一度ト
ライされてみてはいかがでしょうか。
うか。



日南市側に位置する小布瀬の滝

森林分野の研修会開催

【鹿児島森林管理署】11月4

日、鹿児島県歴史資料センター

「黎明館」で森林・自然環境技

術者教育会（JAFFE）と森

林部門技術士会（みどり部会）

の主催で「森林分野CPD認定

プログラム」の一環として、土

砂災害等森林土木領域およびパ

ルプ産業の現状についての研修

会が行われ100人が参加。当

署の森本義春署長が「桜島地区

民有林直轄治山事業35年を振り

返って」という演題で、同事業

が昭和51年度着手以来取り組ん

できた事業の成果や今後の課題、

治山事業の役割や重要性につい

て説明。治山事業に対する理解を

深めることができました。



講演をする森本署長＝鹿児島

国際森林年記念イベント開催

西表島の森林を歩こう

平成23年11月26日、沖縄県竹富町西表島において九州森林管理局、沖縄森林管理署、西表森林環境保全ふれあいセンターの主催による国際森林年記念イベント「西表島の森を歩こう」が開かれ、島内外から70人が参加しました。

はじめに、平之山俊作九州森林管理局長が、「森林にはさまざまな機能があります。国際森林年はこれらの森林を守り、適切に利用していくことの大切さを世界中の多くの方々にご理解いただくため国連で定めたもの

です。我が国のテーマは「森を歩こう」です。西表島の「森を歩こう」森林の大切さとすばらしさを実感していただきたい」とあいさつ。

続いて、来賓の川満栄長町長が「西表島の森を歩き、自然と向き合う中で、そこに生きる動物の生態や生物多様性について認識を深めてほしい」とあいさつ。

講演では、まず西表森林環境保全ふれあいセンターの山下義治所長が「西表島の国有林における取組」西表森林環境保全ふ

れあいセンターの活動」と題して、森林生態系保護地域等保護林の設置状況や、同センターでの取り組みなどについて報告がありました。



カヌーを利用した仲間川コース

次に、新本光孝琉球大学名誉教授に「亜熱帯沖縄における森林資源の特徴と保全・利用」秘境西表島の研究から」と題し、沖縄・八重山の森林の天然林資源の特徴や保全の現状と将来などについて講演をいただきました。



あいさつを行う平之山俊作九州森林管理局長



森林生態系保護地域で森林観察をする参加者

午後の部の「森林観察（森を歩こう）」では、森林生態系保護地域の遊歩道を散策する「大富遊歩道コース」、カヌーを利用し仲間川のマンガロープ林を散策する「仲間川コース」、仲間川河口一帯に広がり群生するマヤプシキおよび干潟を散策する「マヤプシキコース」の3コースに分かれ観察を実施。参加者からは「改めて西表島の自然の

豊かさを体感することができた。普段体験することが出来ないことができて、森林をもっと大切にしなければと思った。今後このようなイベントを開催してほしい」などの声が寄せられました。



体験林業で間伐に挑戦する児童ら＝熊本南部

（担当＝指導普及課）

国有林で体験林業

【熊本南部森林管理署】人吉・球磨自然保護協会主催による体験林業が球磨郡あさぎり町の松尾国有林内において行われ、人吉・球磨郡内から緑の少年団2団体、ボーイスカウト1団体が参加。カエデなどの記念植樹を行いました。その後参加者は、4班に分かれ手鋸によるヒノキの間伐を体験。参加した子どもたちは慣れない手つきの作業で

したが、元氣よく汗をかきながら手鋸を引いていました。森林の大切さを学べ、貴重な体験ができた1日となりました。

森林・林業再生に向け協定締結

【宮崎南部森林管理署】当署

会議室において、南那珂森林組合と「日南市富士地域森林整備推進協定」の調印式を行いました。本協定は、森林組合が集約化した日南市富士地域の民有林とこれに隣接する国有林が連携して共同実施団地を設定することで効率的な路網の整備、低コストで効率的な間伐の促進などを図ることを目的としたものです。今後、この協定が、地域の森林・林業再生のモデルとなるよう民・国が連携して取り組むこととしています。



南那珂森林組合と協定を締結＝宮崎南部

休養林内のボランティア活動を行う

【屋久島森林管理署】11月12日アサヒビールグループの社員12人をはじめ、屋久島観光協会、同ガイド部会、屋久島レンタカー協会、屋久島町など39人が参加し自然休養林内の清掃活動を行いました。これは平成20年から自然休養林のサポーター企業であるアサヒビール社と協力して行っているもの。当日はあいにくの天候となりましたが、参加



清掃活動を終え記念撮影する参加者＝屋久島

者は、白谷雲水峡内遊歩道沿いの登山道整備や休憩用ベンチの設置に汗をながしました。登山者の憩いの場となればと思います。

幼稚園にツリーを提供

【大分西部森林管理署】当署では、旧日田営林署の時代から継続して、市内の幼稚園にクリスマスツリー用のモミの木を提供しています。持ち込んだモミの木は、昨年提供した後に署内

で養生していたもので、もう5年程活躍しています。園内のホールにクリスマスツリーを署員が担ぎ込むと到着を心待ちにしていた園児達は大歓迎、早速飾り付けをしていました。その後園児から、手作りの感謝状を手渡してもらい、全員でクリスマス之歌を合唱してくれました。短い期間ではありますが、今年もこのモミの木が園児達の夢を膨らませ、楽しませてくれることを願っています。



手作りの感謝状をもらう職員＝大分西部



原田 邦博さん

学生時代から山登りが好きで故郷別府へ帰省した折には、別府市の西方にそびえる活火山・鶴見岳や豊後富士と謳われる豊後の名峰由布岳に、また、九州の屋根と呼ばれている、くじゅうの山々にもよく登ったものです。

大学卒業後は地元の企業へ就

職。職場の仲間と山登り同好会を結成し、四季の移ろいを感じながら近辺の山々を散策してきました。最近では山歩きの回数も少なくなってきましたが、私にとって「山」は身近な存在そのものです。

20代・30代の若年時代は、山中を歩いても道端に咲く草花や秋の紅葉を愛でるばかりで、山林に対する関心は今思うと希薄なものでした。

山とのかかわりと国有林 モニターとしての意気込み

当時、大分県経済は第1次産業である農林水産業主体から工業立地県への過渡期にありましたが、まだ県内の山林は農林業に携わる人々の手により、下刈りや枝打ちが施され、伐採が行われ、また、新たな植林も行わ

れ、見よう見まねで下刈りや枝打ちの作業を短時間ですが、遊び半分の手伝い体験もしました。短時間の遊び半分の作業でしたが、とても「きつい仕事だな」と思ったものでした。現在、地区の山林従事者は、義父を含め高齢化が著しく、後継者も少な

く、「山」の手入れもままならない状態になっています。そのため「山」は荒れ放題。境界線もわからなくなるほど、昔の「山」の面影はなくなってしまうというのです。私が今「山」と関わっていることは、県内各地で植林ボランティアの募集があると山仲間

に参加する喜びは、自分の手で植林した木々が季節になると花を咲かせたり、秋には紅葉して人々の目を楽しませてくれることにやりがいを感じます。反面、植林した木々がシカやイノシシによる被害を受けたり、枯れて朽ち果てている様を見ると、と

ても残念に思います。国有林モニターに応募したきっかけは、荒れるにまかせた森林、獣害にあった森林の再生のため、自分が何かできることはないか？微力ながら何かお手伝いができることはないか？と思っていた矢先、国有林モニターの募集を知って応募したものです。しかし、国有林モニターに委嘱されたにも関わらず、まだ現役ということもあり、モニターとしての任務を全うできないことをもどかしく感じています。

（大分県別府市在住）

秋の全国火災予防運動

火災発生に備え初期消火訓練

「消したはず 決めつけない」
 で、もう一度」の全国統一標語のもと、11月9日から15日までの1週間「平成23年秋季全国火災予防運動」が行われました。

当局では、火災が発生しやすくなる時季を迎え火災予防の意識を高めるため、11月16日に消防訓練を行いました。

当日は熊本市中央消防署の方々に協力いただき、局職員をはじめ耐震工事関係者なども参加し火災発生時の通報や避難、消火器を使った初期消火など本番



消防署職員から初期消火の指導を受ける職員

さながらの訓練を実施。職員は各課毎に消火器を使った初期消火の訓練を体験しました。

消防署からは、日ごろ鍵の掛かっている書庫からも発火する可能性があるのを気をつけること、また、避難誘導についてはトイレなどに人がいないかの確認をすることなど、火元の初期消火の対応や避難の方法などについて講評をいただきました。

最後に自衛消防本部長の竹花祐治総務部長が「火災が発生し



皆さんは「木育」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。新しい森林・林業基本計画では、

「木材の良さを木材利用の意義を学ぶ活動」と定義づけられます。

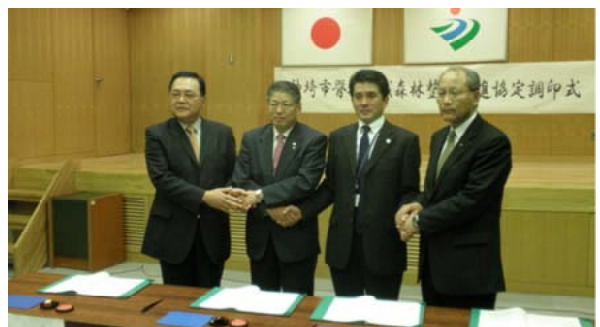
木

さて、この木育、実際にやってみると結構楽しいのですよ。私の場合、木育に取り組んでいる団体や教師の卵の皆さんのお手伝いとして、子供達と一緒に

やすい季節を迎え、防火意識を高め、火災の予防に努めてください」とあいさつ。消防訓練を終了しました。
 (担当：経理課)

森林整備推進協定を締結

【佐賀森林管理署】11月30日、神崎市役所において、佐賀県では初めてとなる「森林整備推進協定」を、(独)森林総合研究所森林農地整備センター九州整備局佐賀水源林整備事務所、神崎市および当署の三者で締結。



森林整備推進協定の締結を終え三者で握手=佐賀

調印式の模様は地もとマスコミでも取り上げられました。この協定により今後、効率的な路網木のおもちゃを作りながら、木材の話や森林の話をしていきます(余談ですが、最近系鋸盤を使ったおもちゃ作りにはまっています)。

そう、木育は、街中でも木材利用や森林の大切さを体感をもつて学んでもらえる可能性を秘めているのです(実はこれがとても難しく、上手にやらないと単なる工作教室になってしまう

育

利用や森林の大切さを体感をもつて学んでもらえる可能性を秘めているのです(実はこれがとても難しく、上手にやらないと単なる工作教室になってしまう

整備や間伐の実施など民・国が連携した推進が図れるものとなるのですがね……)。

九州でも、「木育キャラバン in 熊本」というイベントが12月10～11日にグランメッセ熊本で開催されます。このような動きと、多くの人のつながりを促して、九州で木育を広めていきたいな、と考えています。

という事で、

興味ある方は是非ご連絡下さい。どこかタグを組みなから木育を進めてみましょうよ。
 (計画課長 河野裕之)

待されます。今後は、運営会議を開催し、具体的な取り組みを進めることとしています。

植樹から健全な森林づくりを

【屋久島森林管理署】11月22日愛宕嶽国有林において「第58回熊毛地区植樹祭」が行われ、地元小学校の児童ら150人が参加し、広葉樹300本の植樹を行いました。参加者は賑やかな雰囲気の中、植樹に汗を流していました。これを機会に参加したみなさんが森林への愛着が増し、良い森林づくりにつながればと思います。



広葉樹の苗を植える参加者のみなさん(屋久島)

平成23年度九州の国有林

「国民の森林」実現へ
いろいろな事がありました

新生国有林がスタートして8年目となりましたが、「国民の森林」を目指して取り組んだ主な出来事を「広報九州」の中から振り返ってみました。

「九州森林・林業セミナー」を聞く

1月31日熊本市食品交流会館において「木材自給立50%その1〜今後の公共建築物等における木材利用と実践」をテーマに第4回九州森林・林業セミナーが開かれました。これは、「森林・林業再生プラン」に基づき、2020年までに木材の自給率を50%以上にするなどの目標設定に向け、公的機関が率



第4回九州森林・林業セミナーで講演聞く参加者

先して公共建築物やバイオマス製品を積極的に使用し、民間への波及を図りながら森林と林業の再生を図ること。また、「国際森林年」を記念して行われた。沖修司九州森林管理局長は「このセミナーにより、多くの方々に国産材の利用促進についての理解を深めていただきたい」とあいさつされました。

「九州森林環境シンポジウム」を聞く

「増えすぎたシカによる危機を考える」と題し、2月15日宮崎県小林市において「九州森林環境シンポジウム」が開かれ各分野の専門家から報告をいただきました。また、今後の霧島産地のシカ被害対策についてパネルディスカッションが行われ、350人が参加。情報の交換・共有が図れたシンポジウムとなりました。

「屋久島森林環境シンポジウム」を聞く

ヤクシカの過剰な菜食圧によ



熱心にパネルディスカッションに聞き入る参加者

り深刻な影響が見られることから3月6日屋久島森林環境シンポジウム「屋久島世界遺産の危機と保全」が開かれ、150人が参加。パネルディスカッションでは専門家から貴重な世界遺産を健全な形で次の世代に引き継いでいくためにどのようにヤクシカと共存していけばいいのかなど熱心な議論が行われました。

阿蘇の民有林直轄治山事業が概成

阿蘇根子岳から中岳に至る北側斜面の民有地において、昭和55年8月に発生した集中豪雨災害復旧のため熊本県の要請を受け、昭和57年度に国の直轄治山事業として着手。事業の予定期間が平成22年度末までとなった

いたことから3月3日阿蘇市一の宮町において、阿蘇地区民有林直轄治山事業の概成に伴い治山施設の引き継ぎ式が行われ、佐藤阿蘇市長立ち会いのもと引き継ぎ書に沖局長、下林熊本県次長が署名を行いました。



引き継ぎ書に署名を終えた関係者

国際森林年記念親子スケッチ大会開催

国際森林年記念およびみどりの月間行事として、熊本城内の一角にある監物台樹木園で「第7回監物台樹木園森林と緑のこどもスケッチ大会」を開き、一般公募による幼児、小学生と保護者など142人が参加しました。

東日本大震災被災地へ支援物資を発送

東北地方太平洋沖地震による

災害被災地を支援するため、各森林管理署や関係団体の協力を得て支援物資を調達し、カップ麺やガソリン携行缶、乾電池、ティッシュペーパーなどを3月23日に東北森林管理局向け発送、25日各避難所へ配布されました。

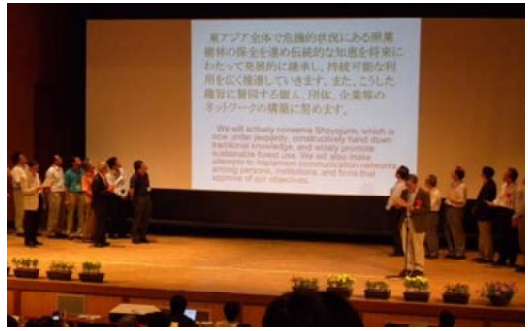


支援物資を積み込む関係者のみなさん

「国際照葉樹林サミット in 綾」を開催

5月21日・22日の両日、国際森林年（2011年）と国際生物多様性の日（5月22日）を記念して「国際サミット in 綾」が宮崎県綾町で開かれ、500人が参加しました。これは東アジアに分布する照葉樹林の生物多様性やそれが育んできた文化、照葉樹林の保全と利用に関する情報交換や交流を通じ、照葉樹林とそこに息づく文化を次世代によりよい形で引き継ぐことを

目的に開かれたものです。



大会宣言文を発表する関係者

を活用した、准フォレスター研修等がスタートしました。当年度の研修は92人（九州各県の職員81人、国有林の職員11人）が受講。3つのグループに分かれ、それぞれ延べ2週間の受講予定となっております。林野庁では、平成27年度までの5年間、毎年400人程度の准フォレスターを育成することとしています。

綾フロ連携会議を開く

宮崎県綾町役場において、第14回連携会議が開かれ、宮崎県、綾町、日本自然保護協会、てるはの森の会、学識経験者ら17人が出席。平成22年度の事業報告について審議が行われました。また、5月に開かれた「国際照葉樹林サミット2011」の参加者数や決算の報告が行われました。

林木育種推進九州地区協議会を開く

7月14日・15日の両日、宮崎市において林木育種推進九州地区協議会が開かれ、九州育種場の重点事項や各機関の林木育種事業の研究重点事項についての意見交換や、コンテナ苗植栽試験地の視察を行いました。



准フォレスター研修へ参加されたみなさん

九州森林管理局長が交代

8月2日付けで、沖修司局長が林野庁国有林野部長へ転出し、平之山俊作局長が就任しました。

「森の塾」を開く

8月22日、熊本市の監物台樹木園で熊本県内の小学校教諭を対象に、「森の塾」を開催。これは先生方に森林・林業について学んでいただき、学校での森林環境教育に活かしていただくことを目的としたもの、今回は熊本大学教育学部の学生2人も聴講生として参加しました。



「カードゲーム」へ挑戦する受講生の皆さん

国有林モニター会議を開く

9月28日、北薩森林管理署管

内で国有林モニター会議を開き、九州各地から21人参加。国有林内の利用間伐事業実行個所で高性能林業機械の作業や新栄合板工業株式会社で合板加工などの見学を行いました。

国際森林年記念植樹祭を開催

10月30日、「雲仙普賢岳ふるさとの森林づくり植樹祭」が長崎県島原市のおしが谷において開かれ、約300人の参加がありました。これは国際森林年を記念して全国12個所の会場をつなぐ「いのちの森づくりリレー植樹」の一環としておこなわれたもの。横浜国立大学宮脇昭名誉教授の植樹指導のもと11種類



主催者あいさつを述べられる平之山俊作局長

の広葉樹のポット苗3400本を植え付けました。

実践・公開講座を実施

熊本市にある監物台樹木園で実践・公開講座「葉の構造を学ぶ」「絵手紙」「クラフト（小物入れ）」「草木染め」を開きました。

森林の流域管理システム推進発表大会

11月9日・10日の両日、熊本市の県民交流会館パレアにおいて、「平成23年度森林の流域管理システム推進発表大会」が開かれました。大会には、九州・沖縄各県の林業関係者や局・署などの職員が参加。また、熊本県や長崎県と大分県遠くは沖縄県から林業を学ぶ高校生など延べ400人が参加しました。課題は、それぞれの地域や職場、学校で取り組んでいる、林業技術や保護活動、業務改善など多岐にわたり、高校生の部8課題、一般の部22課題の発表となりました。（1面、2面参照）

人のうごき

12月1日付森林管理局長発令
宮崎署課付
南崎亜紀子（宮崎署）

シカ被害対策の協定締結

【鹿児島森林管理署】霧島山周辺ではシカの生息数増加に伴い農林業への被害や森林生態系に大きな影響を与えています。現在、シカ被害対策は直営による捕獲やシカネット設置による対策を行っていますが、地域と連携することで、より効果的な対策が図れると考えられ、狩猟期間中に「くくりわな」を貸与し、通常の狩猟の中で捕獲を推進することを目的に、当署と湧水町の吉松地区猟友会が、11月7日狩猟期間中のシカ捕獲を進める協定を締結しました。調印式には、地元テレビ局や新聞社が取材に訪れ、シカ被害に対する関心の高さが伺えました。



握手を交わす猟友会長（右）と森本署長＝鹿児島



説明に耳を傾ける児童ら＝宮崎北部

5年生児童へ「お届け講座」

【宮崎北部森林管理署】11月21日、日向市立日知屋小学校5年生児童48人を対象に、森林環境教育「お届け講座」を行いました。はじめに児童らは、体育館で4班に分かれ「シカと森林のカード」を使って森をつくるゲームに挑戦。「森林官とくくりワナ」「森林所有者とシカ侵入防止ネット」の関係などシカの固体数調整やシカを絶滅させない森づくりに配慮するなど各班とも工夫を凝らしながらゲー

ムを通じて森林への理解を深めました。次に、パワーポイントを使って森林の現状とシカによる森林被害の深刻さを学びました。その後児童らは、校庭で木に触れたり、匂いを嗅ぐなど森林インストラクターの岡崎和代さんの指導で木の名前や特徴などを学びました。

【お詫びと訂正】
本紙前号の4ページ「監物台樹木園の多様な植物」のコーナーで、イチヨウは中国原産の落葉広葉樹は、落葉針葉樹の誤りでした。お詫びし訂正いたします。



九州ではどこでも見られる常緑樹低木です。花が幹の頂点に咲きますので側芽が伸びて幹になります（仮軸分枝）ので高く伸びることができません。

花には雌花、雄花の区別がなく、まず雄花が咲き、花粉を飛ばすと役目を終えると、雌花が生長して種子を作ります。雄花の時期を雄性期、雌花の時期を雌性期といいます。1花で別性期を持っているのは自家受粉を避けるための工夫です。

森の中では低木であることから、日光を体全体で受け取ることはできません。樹陰にあるヤ

51 ヤツデ(ウコギ科)

ツデの葉の広げ方を観察すると、木漏れ日を全て受け取ろうとするように葉を隙間無く広げています。ヤツデは真冬に花を咲かせ常緑で葉が光っていることから庭園樹として利用されています。

方言にテングノハウチワとあるように葉は分裂し、小葉は必ず奇数となっています。牧野図鑑の名前の解説には「何となく分裂葉を見てヤツデとした」とあり、いい加減に名前が付けられたことを証明しています。樹木園入り口のすぐ右手下にひっそりとたたずんでいます。



今年も残りわずかとなった。30歳を過ぎてから、月日の経つのが早いこと早いこと。あっという間に一年が過ぎていく。▼今年もいろんなことがあった。そんな簡単な言葉ですまされないので、3月11日に発生した東日本大震災である。大津波が町を飲み込んでいく様に大きな衝撃を受けた。それに加えて原発事故。この大震災は、多くの人の命を奪い、家や仕事や生活を奪い取った。九ヶ月経った今でも仮設住宅で不自由な生活を送っている多くの人がいる。復興までには何十年という長い時間がかかる。時間の経過と共に過去のことは忘れてしまいがちだが、心の片隅にいつも思いながら、一日も早い復旧・復興を願う暮らしたい。▼寒い冬がやってきた。今年の冬は、原発事故の影響で5%以上の節電目標が示された。昔の生活に戻れば目標達成も難しいことではないような気がする。賢沢に慣れた生活を見直すいい機会かもしれない。節電にチャレンジ。▼師走とはよく言ったもので、本当に忙しい。体調管理を万全にし、乗り越えたいものである。(の)